

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426～8 FAX(087)806-0204
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

定期報告書の提出をお願いします

令和6年11月に県内で発生した高病原性鳥インフルエンザにつきましては、関係各位の防疫対応へのご協力に感謝申し上げます。

さて、毎年、畜産農家の皆様に提出をお願いしている定期報告書ですが、今年も提出する時期がやってきました。

この定期報告書は、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、口蹄疫等の発生予防や発生時における迅速なまん延防止対策を図るため、家畜の飼養者による報告が義務付けられています。

提出いただく内容としては、毎年2月1日時点の飼養頭羽数などを記載した定期報告書に加えて、農場の衛生管理についての自己点検結果や農場平面図、消毒設備の種類や埋却地の情報が記載された書類などになります。高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病発生時は、定期報告書の記載内容に基づき防疫対応を行います。迅速な防疫対応のため、定期報告書には正確な内容を記載してください。

また、自己点検の結果、○が付かない項目は直ちに改善し、農場の衛生対策を向上させた上で、書類を提出してください。

提出方法は郵送、FAX、メールに加えて、令和7年2月から、農林水産省共通申請サービス（eMAFF）上で電子申請が可能になりました。家畜ごとに、指定された期日までに提出するようお願いいたします。

牛、豚、馬、水牛、鹿、めん羊、山羊、いのしし	4月15日
鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥	6月15日



<https://www.pref.kagawa.lg.jp/seibukachiku/teikihoukoku/index.html>

（香川県 HP→『家畜 定期報告』で検索）

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況（近県）

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生延べ 戸数	発生頭羽数 (蜜蜂は群数)
高病原性鳥インフルエンザ（法定）	鶏	島根県	R6.10	1	7
ヨーネ病（法定）	牛	鳥取県、岡山県	R6.8～R6.9	2	2
牛ウイルス性下痢（届出）	牛	兵庫県、鳥取県、岡山県	R6.8～R6.9	3	6
牛伝染性リンパ腫（届出） （旧：牛白血病）	牛	兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、 広島県、山口県、徳島県、香川県	R6.8～R6.10	71	83
破傷風（届出）	牛	山口県、愛媛県	R6.8, 10	2	2
豚丹毒（届出）	豚	兵庫県、鳥取県、島根県、広島県、 徳島県、香川県、高知県	R6.8～R6.10	12	17
牛伝染性鼻気管炎（届出）	牛	広島県	R6.10	1	2
サルモネラ症（届出）	牛	兵庫県	R6.10	1	4
サルモネラ症（届出）	豚	愛媛県	R6.10	1	1
レプトスピラ症（届出）	犬	岡山県、広島県、徳島県	R6.9～R6.10	3	3
パロア症（届出）	蜜蜂	香川県	R6.10	1	1
アカリングニ症（届出）	蜜蜂	山口県	R6.10	1	1

牛の呼吸器病対策

牛の呼吸器病はウイルス等の病原体や飼養環境、また牛の抵抗力が影響しあって発症します。それぞれの要因にあった対策を講じましょう。

病原体に備える

マンヘミアヘモリチカ（旧パスツレラヘモリチカ）は肺炎を引き起こす病原体で生産性に大きな影響を与えます。この菌は普段、牛の鼻腔内でおとなしくしていますが、ウイルスやマイコプラズマ等の他の病原体の感染があると暴れだします。マンヘミアやいくつかのウイルスに対しては有効なワクチンがありますので、積極的に活用してください。

抵抗力を落とさない！

ストレスは牛の抗病性や免疫応答に影響を与えます。離乳や群編成、輸送などの環境変化の前にワクチンを接種して免疫力を高めておきます。また、寒さも子牛には大きなストレスとなります。敷料の増量や断熱材の使用、カーフジャケット等を積極的に活用し、免疫力の低下を防ぎましょう。また、アンモニアガスは牛の気管支粘膜を損傷して病原体の侵入を容易にします。寒冷時は隙間風対策を行って換気をしてください。

感染を拡げない

たくさんの牛が発症すると農場内に病原体が増え、ワクチンを接種していても発症を防げないことがあります。感染が拡がらないように、①発症牛群の治療を後にし感染初期群の治療を優先する、②子牛同士の接触を防止する（鼻づらが接触しないような仕切りの設置）、③牛群別に専用の長靴、衣服を使用する、などの対策を講じましょう。

豚の離乳期及び肥育期に発生する病気について

今回、離乳舎及び肥育舎で見られる病気のうち、特に覚えておきたいものを紹介します。また、日頃の管理をするうえで再確認したい項目も併せて紹介します。

特に覚えておきたい離乳舎及び肥育舎で見られる病気

神経症状	浮腫病（離乳舎）、連鎖球菌症（離乳舎及び肥育舎）
呼吸器症状	豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）（離乳舎及び肥育舎） マイコプラズマ病（離乳舎及び肥育舎）、胸膜肺炎（肥育舎）
脚弱	連鎖球菌症（離乳舎及び肥育舎）
下痢	サルモネラ症、豚赤痢、増殖性腸炎（肥育舎）
皮膚病	豚丹毒（離乳舎及び肥育舎）

上記以外にも豚熱等の様々な病気がありますが、日頃の適切な飼養管理や衛生管理等を実施することでこれらの発症を予防し、生産性を高めることが期待できます。

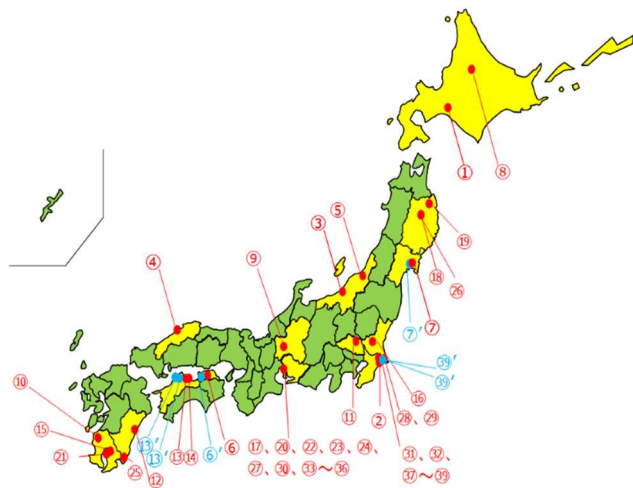
再確認したい離乳舎及び肥育舎における適切な管理

- ・発育に応じた適正な室温や湿度に保ち、適切な換気量の確保
- ・必要なワクチンの接種
- ・導入前の徹底した洗浄・消毒・乾燥等

飼養衛生管理基準を遵守し、日々の飼養豚の健康観察を丁寧に行いましょう。もし異常豚を発見した場合は、早期通報を徹底してください。

鳥インフルエンザ発生予防対策の徹底について

今シーズンは、令和 6 年 10 月 17 日に国内 1 例目が確認され、これまでに（令和 7 年 1 月 21 日時点）14 道県 40 事例、約 705 万羽が殺処分の対象となっています。本県においても 11 月に発生し、令和 4 年から 3 シーズンの連続発生となりました。また、1 月から過去にないほどの勢いで発生件数が急増しており、養鶏密集地域で連続して発生しています。養鶏農家の皆さま、特に大規模農場・過去に発生があった地域・養鶏密集地域の方には、とにかく消毒を徹底する・対策を再点検するなど最大限の警戒をお願いいたします。早期発見・早期通報を心がけ、鶏の様子が「怪しい」「もしかしたら」と感じたら家畜保健衛生所に連絡してください。



お し ら せ

○第 88 回香川県畜産共進会の結果について 【農林水産大臣賞受賞者】

県 HP に受賞一覧表を掲載中



出品区分	名 号	受賞者
第 1 部 (乳 用 牛) 第 5 区	リデイエフ レディースマイト トイストリー	三木町 (有)ワイ・ディ・エフ
第 2 部 (肉用種牛) 第 5 区	みやゆき 31	綾川町 宮本幸茂 氏
第 3 部 (肉 豚)	タクト 2	綾川町 (株)STPF 太田卓人氏
第 4 部 (肉 牛) 第 1 区	—	三木町 (株)多田牧場

○第 13 回全国和牛能力共進会について

令和 9 年 8 月に北海道で開催される第 13 回全国和牛能力共進会に向けた進捗状況をお知らせします。【第 3 区（若雌の 2）】令和 7 年 3 月の交配に向けて各和牛改良組合にて種雄牛の選定を現在行っています。【第 8 区（去勢肥育牛）】多くの農家の方にご協力をいただき、令和 6 年 11 月～12 月にかけて約 120 頭に調整交配を実施しました。今後妊娠鑑定が順次行われ、令和 7 年 8 月下旬より候補牛が出生する見込みです。なお、第 8 区出品候補牛のオークションは令和 8 年 1 月頃を予定しています。

○牛肉骨粉の鶏・豚用飼料への利用再開について

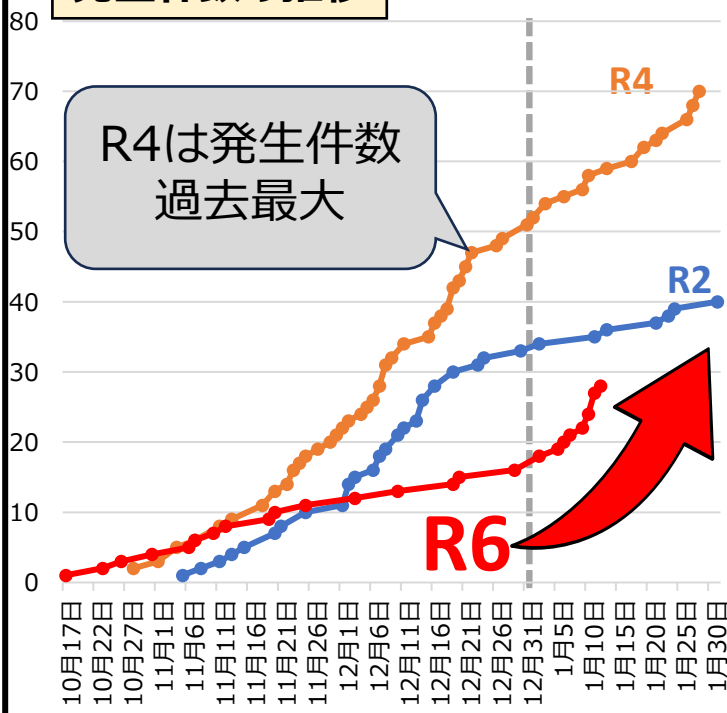
令和 6 年 10 月 3 日、BSE 発生リスクの低下等を踏まえ、牛肉骨粉等の鶏・豚用飼料への利用が再開されることとなりました。飼料の輸入・製造・販売業者及び畜産農家のみなさまは、反すう動物用飼料との混入等がないよう、引き続き管理徹底をお願いします。詳細は、農林水産省の HP (<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/siryo/bse.html>) をご覧ください。

高病原性鳥インフルエンザの発生が急増しています！！

家さん飼養農場では最大限の警戒をお願いします

特に大規模農場、既発生地域、養鶏密集地域は具体的な対策強化を徹底

発生件数の推移



年明けから過去にないほどの勢いで発生件数が急増！
特に養鶏密集地域で連続して発生



具体的な対策のポイント

- ◆ 鶏の様子が少しでもおかしいと感じたら**家畜保健衛生所に連絡を！**
- ◆ 農場周辺にウイルスが大量に存在しているので、**入退場時や敷地周辺の消毒**により人・車両・塵埃によるウイルス持ち込み防止を徹底！
- ◆ **防鳥ネットの設置・修繕、隙間の穴埋め**など、カラス等の野鳥、野生動物侵入防止対策を再点検！



車両・手指・物品消毒の徹底



集卵ベルト等の開口部の隙間対策



防鳥ネットや鶏舎破損の補修